



Session Manager の設定

この章は、次の内容で構成されています。

- [Session Manager の概要, on page 1](#)
- [Session Manager の注意事項および制約事項 \(1 ページ\)](#)
- [Session Manager の設定 \(2 ページ\)](#)
- [Session Manager 設定の確認, on page 4](#)

Session Manager の概要

Session Manager を使用すると、設定変更をバッチ モードで実行できます。Session Manager は次のフェーズで機能します。

- **コンフィギュレーション セッション**：Session Manager モードで実行するコマンドのリストを作成します。
- **検証**：設定の基本的なセマンティック チェックを行います。Cisco NX-OS は、設定の一部でセマンティクス検査が失敗した場合にエラーを返します。
- **検証**：既存のハードウェア設定、ソフトウェア設定、およびリソースに基づいて、設定全体を確認します。Cisco NX-OS は、設定がこの確認フェーズで合格しなかった場合にエラーを返します。
- **コミット**：Cisco NX-OS は設定全体を確認して、デバイスに対する変更をアトミックに実行します。エラーが発生すると、Cisco NX-OS は元の設定に戻ります。
- **打ち切り**：設定変更を実行しないで廃棄します。

任意で、変更をコミットしないでコンフィギュレーションセッションを終了できます。また、コンフィギュレーション セッションを保存することもできます。

Session Manager の注意事項および制約事項

Session Manager には、次の注意事項および制限事項があります。

- Session Manager は、アクセス コントロール リスト (ACL) 機能のみサポートします。
- 作成できるコンフィギュレーション セッションの最大数は 32 です。
- すべてのセッションで設定できるコマンドの最大数は 20,000 です。

Session Manager の設定

セッションの作成

作成できるコンフィギュレーション セッションの最大数は 32 です。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure session** *name*
2. (Optional) switch(config-s)# **show configuration session** [*name*]
3. (Optional) switch(config-s)# **save** *location*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure session <i>name</i>	コンフィギュレーションセッションを作成し、セッション コンフィギュレーション モードを開始します。名前は任意の英数字ストリングです。 セッションの内容を表示します。
ステップ 2	(Optional) switch(config-s)# show configuration session [<i>name</i>]	セッションの内容を表示します。
ステップ 3	(Optional) switch(config-s)# save <i>location</i>	セッションをファイルに保存します。保存場所には、bootflash または volatile を指定できます。

セッションでの ACL の設定

コンフィギュレーション セッションで ACL を設定できます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure session** *name*
2. switch(config-s)# **ip access-list** *name*
3. (Optional) switch(config-s-acl)# **permit** *protocol source destination*
4. switch(config-s-acl)# **interface** *interface-type number*

5. switch(config-s-if)# **ip port access-group** *name* **in**
6. (Optional) switch# **show configuration session** [*name*]

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure session <i>name</i>	コンフィギュレーションセッションを作成し、セッション コンフィギュレーション モードを開始します。名前は任意の英数字ストリングです。
ステップ 2	switch(config-s)# ip access-list <i>name</i>	ACL を作成します。
ステップ 3	(Optional) switch(config-s-acl)# permit protocol source destination	ACL に許可文を追加します。
ステップ 4	switch(config-s-acl)# interface <i>interface-type number</i>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	switch(config-s-if)# ip port access-group <i>name</i> in	インターフェイスにポート アクセス グループを追加します。
ステップ 6	(Optional) switch# show configuration session [<i>name</i>]	セッションの内容を表示します。

セッションの確認

セッションを確認するには、セッション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config-s)# verify [verbose]	コンフィギュレーションセッションのコマンドを確認します。

セッションのコミット

セッションをコミットするには、セッション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config-s)# commit [verbose]	コンフィギュレーションセッションのコマンドをコミットします。

セッションの保存

セッションを保存するには、セッション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config-s)# save location	(任意) セッションをファイルに保存します。保存場所には、bootflash または volatile を指定できます。

セッションの廃棄

セッションを廃棄するには、セッション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config-s)# abort	コマンドを適用しないで、コンフィギュレーションセッションを廃棄します。

Session Manager のコンフィギュレーション例

次に、ACL 用のコンフィギュレーション セッションを作成する例を示します。

```
switch# configure session name test2
switch(config-s)# ip access-list acl2
switch(config-s-acl)# permit tcp any any
switch(config-s-acl)# exit
switch(config-s)# interface Ethernet 1/4
switch(config-s-ip)# ip port access-group acl2 in
switch(config-s-ip)# exit
switch(config-s)# verify
switch(config-s)# exit
switch# show configuration session test2
```

Session Manager 設定の確認

Session Manager の設定情報を確認するには、次の作業のいずれかを行います。

コマンド	目的
show configuration session [name]	コンフィギュレーション ファイルの内容を表示します。

コマンド	目的
show configuration session status <i>[name]</i>	コンフィギュレーションセッションのステータスを表示します。
show configuration session summary	すべてのコンフィギュレーションセッションのサマリーを表示します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。